

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年7月19日
タイトル	学校のみんなで田植えをしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年6月7日（木）福山市立金江小学校全児童113名が、金江小学校のすぐ近くの田んぼで田植えをしました。金江小学校は水土里ネット福山の「南部工区」という地区にあり、昭和43年度から昭和45年度に当時の南部土地改良区が事業主体となり「ほ場整備事業」が施行された地域です。近年も排水機や揚水機の保全等土地改良事業を施行しており、小学校の農業体験も水土里ネット福山の役員や組合員が積極的に取り組んでいます。

まずは、4年生から田植えです。田んぼへ一番に入ります。泥の感触に初めは歓喜の声をあげながら田んぼの一番奥まで歩いて行きます。はえ縄の印にあわせて苗を植えていきます。最初は手に泥がつくのも躊躇っていましたが、一度植えると去年の田植えを思いだしドンドン植えました。もっと植えたいようでしたが、他の学年の植えるところがなくなるので渋々田んぼから上がりました。

続いて、3年生が田んぼに入り田植えをしました。3年生も慣れたもので上手に田植えをしました。続いて2年生が田植えです。昨年は1年生だったので6年生と一緒に植えたので、自分達だけで植えるのは初めてです。ボランティアティーチャーの小川さんが、苗を3本取るやり方や植える時、親指、人差し指、中指の3本で持って植える土の中で親指を離すように教えておられました。元気一杯の2年生はしりもちをついたり、首に巻いたタオルを田んぼの中に落としたりして泥だらけになっていました。



続いて、1年生と6年生と一緒に田んぼに入ります。6年生は1年生の手をひいてゆっくりと入っていました。1年生は歩くだけでも大変そうでしたが、6年生に教えられ、植え方も上手になりました。

最後は5年生が田植えです。5年生は1年を通じて稲作に携わることになっていて、すでに籾蒔きをして苗を育苗していました。田植えも慣れたものであつという間に終わりました。今年は5年生の提案で塩水選の時に水に浮いた籾と沈んだ籾を分けて育苗し、稲の成長に違いがでるか調べるそうです。



6年生がやさしく1年生に教えていました！



成長を観察するため植える位置を確認！

田植えが終わると学校の校庭に5年生が集まり、お世話になった地域の方にお礼を言いました。5年生はこれから稲の成長を観察していくそうです。



田植えを終えた子ども達は、近くの用水路で手足の泥を流して学校へ帰りました。

身近に感じる用水路でも転落など危険があるため、子ども達に水路への転落防止の呼び掛けをしました。

福山市上下水道局から提供いただいた災害備蓄飲料水「福山の水」を配布しました。

小川さんのお米作りの指導は、5年生には専門的で難しいのかなと思いましたが、粳の違いで成長に違いができるか観察することを支援するなど、5年生が一生懸命教えていただいたことに応えていることが分かりました。

5年生のみんなには、これから収穫まで栽培や観察を頑張ってほしいです。

金江町では、水土里ネット福山の役員、組合員が大変積極的に農業体験に取り組んでおられ、これから稲刈りまで指導をされるそうです。水土里ネット福山は、この取り組みに協力することで、21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。